

## $\delta$ -polynomial of decomposable links

大阪工大 渋谷哲夫 (Tetsuo Shibuya)

$R^3$  中の tame な oriented link  $l$  には  $R^3$  で orientable surface  $F$  で  $\partial F = l$  になるものがある。そこでこのような surface のうちで connected component の数の最大数を  $\nu(l)$  で表す。  $l$  が decomposable とは  $\nu(l) \geq 2$  のときを言う。

つぎに link の  $\nabla$ -polynomial ([2]) を定義する。 link  $l$  に対して connected orientable surface  $F$  で  $\partial F = l$  になるものから Seifert matrix  $S$  が定義される ([5])。この  $S$  をつかい、  $l$  の  $\nabla$ -polynomial,  $\nabla_l(t)$  で表す、を

$$\nabla_l(t) = (t-1)^{-\mu+1} |S - tS'|$$

で定義する、ここで  $\mu$  は  $l$  の component の数で  $S'$  は  $S$  の転置行列。しかし  $l$  が decomposable のとき、すなわち  $\nu(l) = n \geq 2$  とすると  $l$  の Seifert matrix  $S$  は最後の  $n-1$  行と  $n-1$  列の成分がすべて 0 になることがわかり、常に  $\nabla_l(t) = 0$  になる。そこで  $\nu(l) = n \geq 2$  のとき、この最後の  $n-1$  行と  $n-1$  列をとり、のぞいた行列を  $W$  として、

$$\delta_l(t) = (t-1)^{-\mu+m} |\mathbb{W} - t\mathbb{W}'|$$

と定義し、これを  $l$  の  $\delta$ -polynomial と言う。また  $v(l)=1$  のときは、 $\delta_l(t) = \nabla_l(t)$  と考へる。したがつて  $\delta_l$  と  $\nabla_l$  は  $v(l) \geq 2$  で違ひがでる。たとえば、 $l=3, 4$ , ( $\circ$  は split を意味する) とすると、 $\nabla_l(t) = 0$  だが、 $\delta_l(t) = \Delta_{3, \circ}(t) \Delta_{4, \circ}(t)$  になる。

上で述べたように  $l$  が decomposable ならば、 $\nabla_l(t) = 0$  であるが、この逆が成立するかというのが [4] における予想であるが答は No である。たとえば次ぎのような 3-component link  $l = k_1 \cup k_2 \cup k_3$  を考へればよい。この Seifert

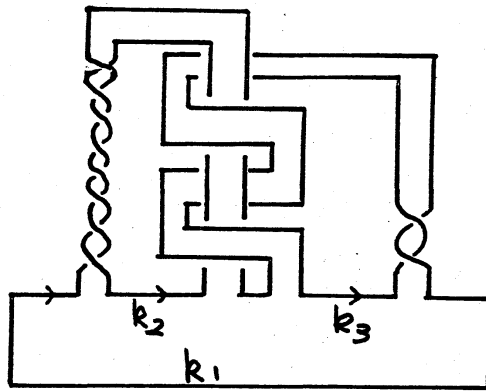


図 1

matrix  $S$  をつくと、

$$S = \begin{pmatrix} 4 & 2 \\ 2 & 1 \end{pmatrix}$$

だから、 $\nabla_l(t) = (t-1)^{-2} |S - tS'| = 0$ 。しかしながら  $l$  は

decomposable でない。なぜなら  $l$  が decomposable ならば、ある  $i (=1, 2, 3)$  に対して  $\text{Link}(k_i, l - k_i) = 0$  でなければならないが、どの  $i$  に対しても上の linking numberは 0 にならない。

つぎに decomposable link に対して simple fusion というものを定義する。

いま  $l$  を  $\mu$ -component link として  $B = B_1 \cup \dots \cup B_n$  を互いに交わらない disks で  $l \cap B_i = l \cap \partial B_i = 2$  本の arcs

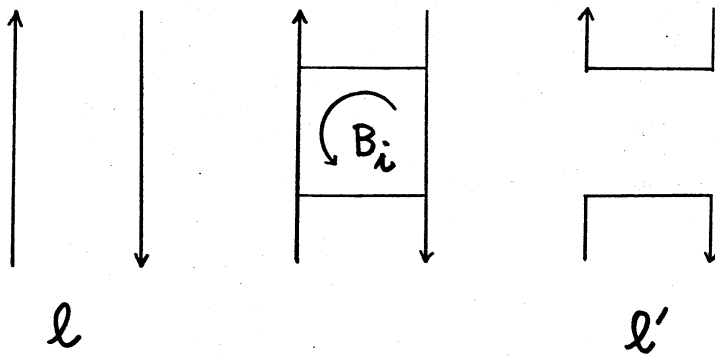


図 2

となる  $B$  を考えたとき、 $l' = l + \partial B$  の component の数が  $\mu - n$  のとき、 $l'$  は  $l$  の fusion で得られるといい、 $B$  を  $l$  の fusion を与える bands という。

特に  $l$  が decomposable のとき、orientable surface  $F = F_0 \cup \dots \cup F_m$  で  $\partial F = l$ ,  $\partial F_i \cap l \neq \emptyset$  があるが、 $l$  の fusion を与える bands  $B = B_1 \cup \dots \cup B_m$  が  $\forall s = 0, \dots, m$  に対して  $l_s \cap B \neq \emptyset$  のとき、 $l' = l + \partial B$  を  $l$  の simple

fusion で得られる link という, ここで  $l_i = \partial F_i$ .

$l$  が decomposable のとき,  $l$  に張る surface は一意ではないし,  $B$  のとり方も一意ではなく, したがって  $l'$  は link type として一意には決まらない。しかし  $\delta$ -polynomial に関してはつぎの定理が成立する([6])。

**定理**  $l$  が decomposable link で  $l'$  を  $l$  の simple fusion で得られる link で  $\nu(l') = 1$  とする。そのとき,

$$\delta_{l'}(t) = f(t)f(t^{-1})\delta_l(t)$$

と書ける, ここで  $f(t)$  はある integral polynomial で  $f(1) = \pm 1$  を満たすものである。

**証明**  $l$  を  $\mu$ -component link とし  $\nu(l) = n$  とする。すると  $l$  の Seifert matrix  $S$  は  $F$  の形になる:

$$S = \begin{matrix} & \overset{n-1}{\text{---}} \\ & \begin{pmatrix} W & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix} \\ \begin{matrix} n-1 \\ \text{---} \end{matrix} & \end{matrix} .$$

したがって定義より,  $\delta_l(t) = (t-1)^{-\mu+n} |W - tW'|$ .  
また  $l$  の simple fusion を与える  $(n-1)$  個の bands と  $l$  が張る surface との交わりは ribbon type のみとしてよ

11. この各 ribbon type の交わりの個所で図3のような orientation preserving cut を行う。各 orientation

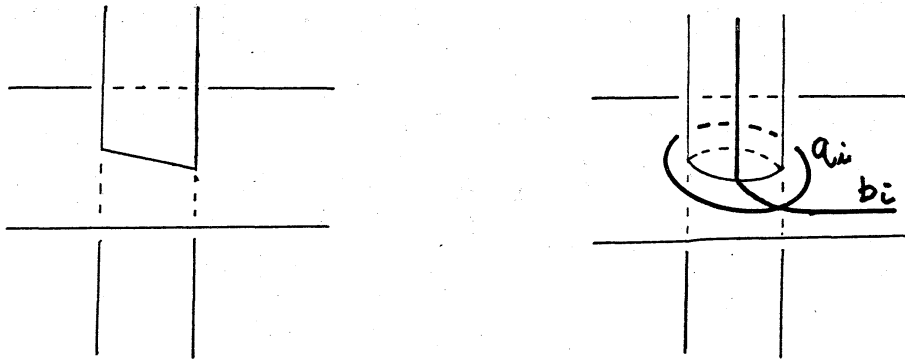


図3

preserving cut を行うと genus が 1 ずつ増えて、 $\ell'$  に non-singular orientable surface  $F$  が張れる。 $F$  から Seifert matrix  $\bar{S}$  をつくと  $F$  のようになる:

$$\bar{S} = \begin{matrix} & a_i & b_i \\ a_i & \begin{pmatrix} W & 0 & U_4 \\ 0 & 0 & U_2 \end{pmatrix} \\ b_i & \begin{pmatrix} U_3 & U_1 & U \end{pmatrix} \end{matrix} .$$

$\nu(\ell') = 1$  で  $\ell'$  の component の数は  $\mu - n + 1$  だから、

$$\begin{aligned} \delta_{\ell'}(t) &= (t-1)^{-\mu+n-1+1} |\bar{S} - t\bar{S}'| \\ &= (t-1)^{-\mu+n} |W - tW'| |U_1 - tU_1'| |U_2 - tU_2'| \\ &= f(t) f(t^{-1}) \delta_{\ell}(t). \end{aligned}$$

$\therefore$   $f(t) = |U_1 - tU_1'|$  である。また  $a_i \cap b_i = -1$ ,  $a_i \cap b_j = \phi (i \neq j)$  にとれるから  $f(1) = \pm 1$  になる。

これを使うとつぎの系を得る。

系  $l$  が slice link in the weak sense でしか  
も boundary link ならば,  $\delta_l(t) = f(t)f(t^{-1})$  と書ける.  
ここで  $f(t)$  は integral polynomial で  $f(1) = \pm 1$  を満たす  
ものとする。

証明  $l$  が slice link in the weak sense だから,  
 $l \subset R^3[0]$  に対して  $R^4$  の上半空間  $R_+^4$  で locally flat  
な genus 0 の surface  $F$  が張れる。  $F$  の minimal  
point, saddle point を 図4 (a) から (b) のように変形  
する。この変形で得られた surface を  $F'$  とすると,  $F' \cap R^3[0]$

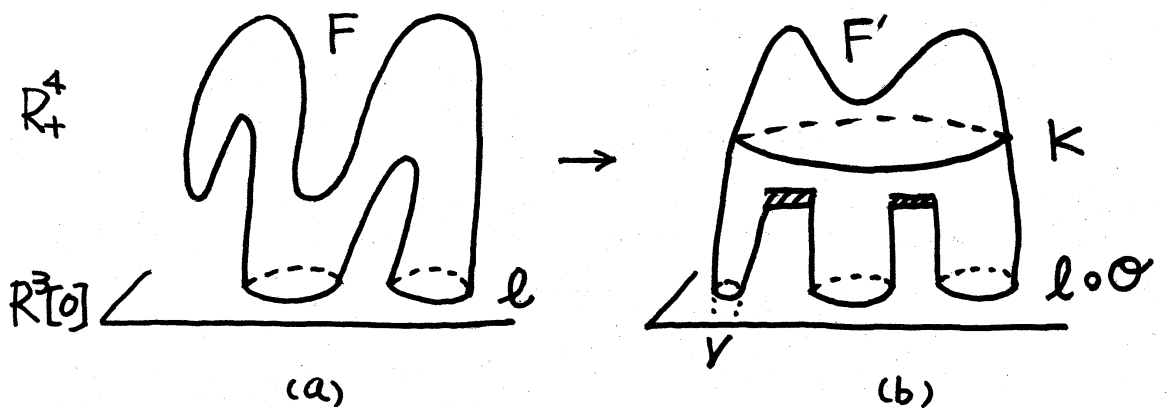


図4

は  $l$  と trivial link  $O$  が split している。  $l$  が boundary  
link だから  $l \circ O$  も boundary link で knot  $K_1$  は  $l \circ O$

の simple fusion で得られ  $V(K)=1$  である。故に定理より

$$\delta_K(t) = f_1(t) f_1(t^{-1}) \delta_L(t).$$

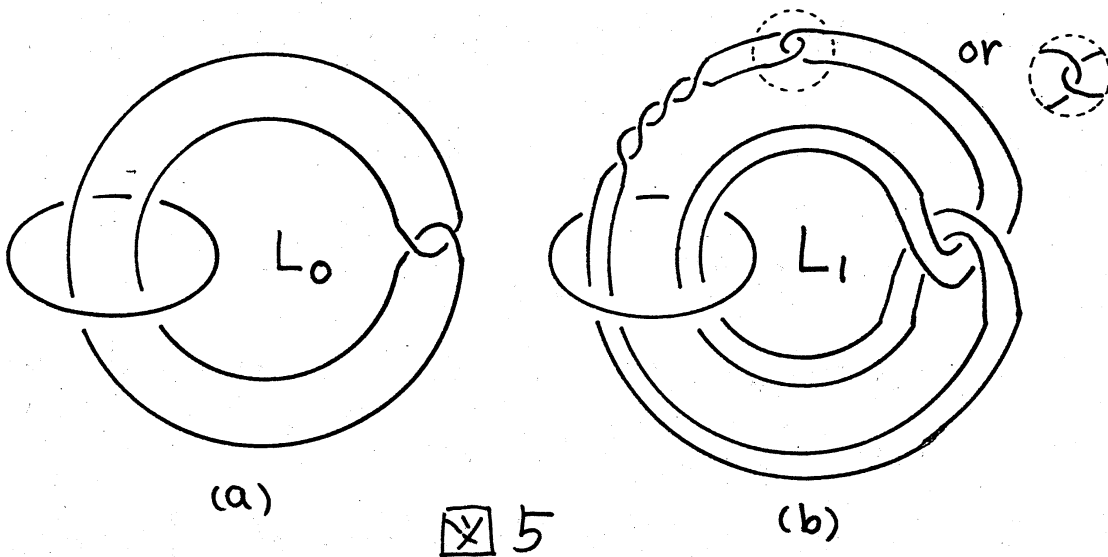
一方で  $K$  は ribbon knot だから、

$$\delta_K(t) = f_2(t) f_2(t^{-1})$$

と表わせるから、ある integral polynomial  $f(t)$  が存在して

$$\delta_L(t) = f(t) f(t^{-1}).$$

この系を使い Casson の問題を考へる。Whitehead link  $L_0$  の一つの component の non-twisted double をつくる



(図 5(b)). これを 1-*st* iterated Whitehead link と呼び  $L_1$  で表す。以下同様に  $p$ -*th* iterated Whitehead link  $L_p$  をつくる。そのとき、

Cassonの問題 ([3])  $\forall p$  に対して  $L_p \sim 0$  (すなわち  $L_p$  は slice link in the strong sense) か?

これについては  $L_1 \neq 0$ . 実際は系より  $L_1$  は slice link in the weak sense でない。なぜなら  $L_1$  は boundary link ぞ。

$$\delta_{L_1}(t) = t^4 - 4t^3 + 5t^2 - 4t + 1$$

$$\text{or } t^4 - 4t^3 + 7t^2 - 4t + 1$$

これらは  $f(t)f(t^{-1})$  に分解できない。

注  $p \geq 2$  ならば  $\delta_{L_p}(t) = 1$  である。また  $\exists p(\geq 2)$  で  $L_p \sim 0$  ならば  $\forall q \geq p$  で  $L_q \sim 0$  である ([7])。

### References

- [1] C. Goldberg: On the genera of links, Ph.D. Thesis, Princeton Univ., 1970.
- [2] F. Hosokawa: On  $\nabla$ -polynomials of links, Osaka Math. J., 10 (1958), 273-282.
- [3] R. Kirby: Problems in low dimensional manifold theory, Proc. of Symposia in Pure Math. 33 (1978),



273-310.

- [4] K. Murasugi: Lecture Notes, Toronto Univ., (1970).
- [5] H. Seifert: Über das Geschlecht von Knoten, Math. Ann., 110 (1934), 571-592.
- [6] T. Shibuya:  $\delta$ -polynomial of links, Kobe J. of Math., to appear.
- [7] T. Shibuya: On the cobordism of links with two components in a solid torus, Kobe J. of Math., to appear.